1. 評価結果概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	4071200804
法人名	医療法人　永寿会
事業所名	グループホーム　シーサイド
所在地 （電話番号）	福岡県福岡市西区今津３８１０番地 （電　話）　０９２－８０６－９０６７

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町４－６　北九州ビル８階		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年4月17日

【情報提供票より】（平成２２年３月１日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　１５　年　４　月　１　日	
ユニット数	２ ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	22　人	常勤　１６ 人，非常勤　６ 人，常勤換算 １７，４ 人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	４階建ての　２階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	35,000　円		その他の経費（月額）	（光熱水費）　21,000 円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（ 100,000　円 ）		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300　円	昼食	550　円
	夕食	500　円	おやつ	円
	または１日当たり	円		

（4）利用者の概要　（３月１日現在）

利用者人数		17 名	男性	0 名	女性　17 名
要介護１		3　名	要介護２	8　名	
要介護３		3　名	要介護４	2　名	
要介護５		1　名	要支援２	0　名	
年齢	平均	84.8 歳	最低	65 歳	最高　97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	シーサイド病院・川添記念病院・宮本歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史ある医療法人を母体とする「グループホーム　シーサイド」は、糸島半島の豊かな自然環境と長閑な田園風景の中にあり、４階建ての２階に位置しているホームからは、遠く能古島や志賀島までを眺める事ができる。併設医療機関との充実した連携の中で、入居者と医師・看護師との馴染みの関係も築かれており、日々の健康管理や医療活用、また常に状況の変化に対応できる体制が整備され、入居者・家族の安心につながっている。この地域では福祉施設や医療機関が集積する「今津福祉村」として、地域との協働によるまちづくりを推進しており、様々なネットワークを活用し、地域と一体となった取り組みの中で、活発な交流が行われている。法人として、働きやすい職場環境づくりや職員育成に積極的に取り組んでおり、長期勤務している職員も多く、なじみの関係の中で、日々の一人ひとりの穏やかな暮らしを支援している事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	アセスメントが充実してきており、定期的な更新も行われている。また、介護計画作成時の、家族と話し合いや説明を充実させるよう取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価作成にあたっては、、アウトカム項目まで集計をとり、職員意見を集約する形で作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	家族の参加しやすいスケジュール調整を重視し、行事（母の日・敬老会・クリスマス会）や食事会を兼ねた運営推進会議を開催しており、出席者も多い。入居者の参加もあり、活動状況の報告や意見交換を行い、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8，9）
	ホームの苦情相談窓口とともに、法人窓口及び関係機関の相談窓口を案内している。家族とのコミュニケーションの機会を大切にしており、個別に直接申し出を受ける事も多い。意見や要望があった場合には、専用書式に記録し職員間で共有しながら、改善に向けて取り組んでいる。また法人としてのサービス向上委員会にも報告し、法人全体でのサービス向上に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	法人として、町内会に加入している。近隣には民家は殆ど無く、日常的な交流については難しい環境にあるが、福祉施設や医療機関の集積する地域ネットワーク（今津福祉村）の中で、様々な形での交流があり、また地域に向けての情報発信等の活動も行われている。

2. 評価結果(詳細)

(□ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の基に、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、グループホームとしての理念・方針が作られており、「地域社会への貢献に努めます。」と示されている。併設される医療機関との連携の中で、あくまでも生活の場所として、日々の支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎日、確認・唱和しており、また運営推進会議においても、毎回理念についての話をしている。日々の支援の中で、理念を念頭においた対応に努めており、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として、町内会に加入している。近隣には民家は殆ど無く、日常的な交流については難しい環境にあるが、福祉施設や医療機関の集積する地域ネットワーク(今津福祉村)の中で、様々な形での交流があり、また地域に向けての情報発信等の活動も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価作成にあたっては、、アウトカム項目まで集計をとり、職員意見を集約する形で作成されている。評価の機会を活用し、サービスの向上に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加しやすいスケジュール調整を重視し、行事(母の日・敬老会・クリスマス会)や食事会を兼ねた運営推進会議を開催しており、出席者も多い。入居者の参加もあり、活動状況の報告や意見交換を行い、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。行事スケジュールとの兼ね合いで、日程調整を今後の課題としている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの協力を得て、地域住民へ向けて「健康講座」を開催し、40名程の参加を得ている。福岡市担当者とは、必要時に電話やメールにて随時連絡を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者・家族・関係者に向けて、入居時や運営推進会議等において権利擁護に関する制度について説明している。現在制度を活用している方もおり、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を計画的に実施し、職員全員の理解を深めるよう取り組んでいる。成年後見用診断書の取得に関しても、必要な支援を行っている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「シーサイドだより」を発行しており、日々の暮らしや行事での様子を、写真とともに報告している。また写真はアルバムを作成し、家族に渡している。家族アンケートからも、定期的な報告や介護計画作成時の話し合い等が、丁寧に行われていることが伝わる。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情相談窓口とともに、法人窓口及び関係機関の相談窓口を案内している。家族とのコミュニケーションの機会を大切にしており、個別に直接申し出を受ける事も多い。意見や要望があった場合には、専用書式に記録し職員間で共有しながら、改善に向けて取り組んでいる。また法人としてのサービス向上委員会にも報告し、法人全体でのサービス向上に努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	バランスや視点を新たにしていくためにも、年1回ユニット間で1名程度の異動を行っている。福利厚生の充実等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、昨年評価以降、自己実現のための退職はあったが、それ以外はなく、安定した状況にある。長期勤務している職員も多く、なじみの関係の中で日々の支援が行われている。		
5．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。ゆとりある人員配置の中で、業務内容を随時見直し残業は殆どなく、有給休暇の計画的取得を行っている。また食事代や職員旅行についても、全額法人より補助が行われており、職員の負担軽減にも配慮しながら、個々の能力が発揮できるよう体制が整備されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	新人研修として、また研修計画の中にも、倫理や個人の尊厳、認知症に関する内容を組み入れている。ビデオを用いた研修では職員個々が自分なりに考え、アンケート調査等も実施している。また職員の負担軽減、精神的なゆとりにも配慮している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、内部研修を実施するとともに、職員個々のスキルに応じた外部研修参加を促している。また介護保険事業者協議会に参加しており、協議会主催の研修にも参加している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	10周年を迎える、福岡市介護保険事業者協議会に参加しており、法人として幹事を務めている。協議会主催の研修も充実しており、情報交換や相互訪問へとつなげている。また「今津福祉村」としての交流活動を通じて、様々なネットワークを構築している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人・家族との面談を行い、思いや意向を把握し、また受けとめる事により信頼関係を築いていけるよう努めている。またホームの見学を行いながら、サービスの説明や雰囲気を感じてもらい、安心して入居できるよう配慮している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの、興味のあることや関心のあること、また生活暦や趣味等を把握することで、ともに行ったり助言を得たりする場面作りや、達成感を共有する場面を大切にしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、詳細かつ丁寧なアセスメントが行われており、定期的に更新されている。また日々の暮らしの中で寄り添い、言葉や表情、行動等から、思いや願いをくみ取り、職員間で共有するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	充実しているアセスメントを活かしながら、医療関係者等の意見を踏まえ、職員間でのカンファレンスを実施し介護計画を作成している。本人・家族の意向確認を必ず行い、状況によりホームへの来訪が難しい場合にも、電話等で連絡している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリング・カンファレンスを実施し、見直しを行うとともに、状況の変化に応じて随時見直している。計画にそった日々の記録が行われており、職員間での共有を図りながら計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されている医療機関との充実した連携の中で、入院時の関係性の継続や早期退院への働きかけが円滑に行われている。また併設するデイサービスの車両を活用して、ドライブ等に出掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関が併設されており、かかりつけ医としている方が多く、医師・看護師との馴染みの関係の中で、情報を共有し、随時経過を報告する等、充実した医療との連携体制が構築されている。併設医療機関、また系列病院にも専門医がおり、適切な医療活用となるよう支援している。歯科の訪問診療も活用している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化された場合における対応に係る指針」を入居時に示し、家族に同意を得ている。本人・家族の意向を大切にし、医療関係者との話し合いを重ねながら、母体となる医療機関との充実した連携の中で、出来る限りホームでの暮らしが継続できるよう支援している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報・プライバシー確保に関する研修を実施し、職員への周知を図っており、全職員に誓約書の提出を義務付けている。入居者一人ひとりの理解、また認知症の理解を深めながら、日々の暮らしの中で尊厳を損なわない対応となるよう、職員の意識向上に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状況や状態を把握した上で、入居者一人ひとりの、生活リズムやライフスタイルを尊重した支援に努めている。自己決定の場面を大切に支援し、無理強いとならないように、また生活の活性化への働きかけを行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とともに食卓を囲み、和気藹々とした食事風景があった。新型インフルエンザへの配慮から、外食を控えていたが、その間にも職員の企画による、「すき焼きパーティ」や「寿司パーティ」を行い、「食」を楽しむ機会を工夫している。土筆を摘み、はかま取りを入居者の方々とともに行いながら、旬の食材を味わう等、季節感を取り入れている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日の設定（隔日）はあるが、入居者の希望や状態に応じて、シャワー浴や清拭、タイミングを工夫する等、無理強いとならないよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除機や炊飯器、ポット等、丈夫な業務用はあえて使用せず、入居者も馴染みやすい一般家庭用を使用している。アセスメントから導かれた得意分野や趣味等を活かして、力を発揮できる場面づくりに取り組んでおり、今後も継続して一人ひとりの全体像の把握に取り組みながら、暮らしの活性化へとつなげて欲しい。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域行事への参加や買い物等に出掛けている。また時折屋上からの景色を眺めたりすることもある。併設するデイサービスの車を活用し、ドライブ等に出掛けている。	○	建物玄関前は急な坂道となっており、特別な配慮が必要となるが、日常的な散歩や個別の外出支援等を充実させていきたいとの意向があり、今後の取り組みに期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ベランダ出入り口は非常用を想定しており施錠しているが、ユニット入り口等の施錠は行っていない。エレベーターについても簡単な(微笑ましい)工夫はされているが、閉塞感は感じない。見守りや行動傾向の把握、日々の状況に留意し、鍵をかけないケアを実践している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画・防災マニュアルに基づき、年2回(1回は消防署立会い)の避難訓練を実施しており、災害時のライフラインの遮断も想定し、あらゆる物資の備蓄が行われている。災害時・緊急時に関する研修を実施し、また自衛消防隊を組織しており、施設全体での協力体制の構築に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による、栄養バランス等に配慮された献立が作成されており、入居者個々の年齢・体重・活動量等に応じたカロリー量を設定している。食事・水分摂取量を把握し、医師の指示・助言を受けながら、健康管理につなげている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間にある広い共用ホールには、季節に応じた飾り付けが行われており、玄界灘に浮かぶ能古島や志賀島まで眺める事が出来る。椅子やテーブルも配置されており、くつろげる場所として、また行事等にも活用されている。家庭用の電気製品（炊飯器・掃除機等）を使用し、入居者が使用しても違和感ないよう配慮している。併設病院医師より毎週花が届けられ、入居者により活けられている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	病棟であった場所を改修して利用しており、充分な広さを持つ各居室には、洗面台やクローゼットが設置されている。テレビやソファー、仏壇、箪笥等、馴染みの物が持ち込まれており、またそれぞれの状況に応じた、様々な工夫がなされている。各居室入り口には、それぞれ番地が記されている。		